

文化および教育の交流に関する日米合同会議（第1回カルコン合同会議）

最終コミュニケ 1962年1月31日（抜粋）

カルコンの目的

「現在の交流活動を有効に推進し、強化する方途を探究する」

交流の具体的内容

「人物交流、図書および資料の交換、芸術の交流、日本および米国の地域研究および語学教育」

交流の担い手

「これらの活動を促進するための公私団体」

政府の役割、民間の役割

「政府本来の役割は、これらの活動を統制することではなく、促進せしめることにあり、これらの活動は個人あるいは民間団体の最大限の創意と自治とに委ねるべきものである」

「公的団体と私的団体の間には活動領域の分担が明瞭にされるべきである」

「両国政府は、民間団体に対し、文化および教育の交流計画に対する財政的援助を拡大するように十分な指導と刺戟を与えることが必要（中略）。交流活動に関してこまかい点にまで政府の統制には服さないが、政府の援助を有効に使う道を開くような新しい形の団体の創設を考慮することが望ましい。」

交流のあり方

「あらゆる分野における交流に関しては、量の増加より質の改善に特別の注意

を払うとともに、卓越した能力を持ち、将来相当期間にわたり活躍が期待される青壮年に対して、今後は一層の重点をおくべきこと」

「人物交流はそれ自体が目的ではないことが強調されるべきである。各々の人物交流の目的が明瞭でなければならない」

「両国から才能ある人物を集め、その協力により共通の基本的問題の解決にあたること」

「すべて文化の発展は創造力に富む個人によるところが大きく、個人の経験があつて、はじめて国際間の文化交流が豊かな国民生活を産み出すのである」